多賀城高校の体育館で行われたポスター発表。参加者が熱心に耳を傾けている

連載 第11回

ポケふたと震災遺構

東日本大震災メモリアル day 2022
宮城県多賀城高校　災害科学科

取材・文・写真
阿部 匠之介（渡波中学校3年生）
阿部 壮汰（渡波小学校4年生）

宮城県内の東日本大震災による被災15市町にあるポケモンマンホール「ポケふた」と、その地の震災遺構を特集する「ポケふたと震災遺構」は、第35号（2020年9月11日発行）からスタートしました。第11回目となる今回は、最終回として、5つの市町を特集でご紹介します。

多賀城高校災害科学科は、平成28年4月、東日本大震災発生から5年後に、宮城県初の防災系専門学科として誕生した。全国では、兵庫県立舞子高校の環境防災科に続いて2例目となる。大震災から学んだ教訓を確実に伝承し、将来、国内外で発生する災害から、多くの命とくらしを守る人材を育成するために設置された。自然災害・防災・減災・伝承を科学的に捉え、過去のできごととしてではなく、未来に成すべきこととつなげる学びを行っている。

2023年1月20日～21日、同校では「東日本大震災メモリアル day 2022」（主催：多賀城高校）が行われ、県内外から18校、47人の生徒たちが一堂に介し、日頃の学習の成果を発表し、意見交換した。

多賀城高校災害科学科の岡本 隆宏さんと鐵 勇人さんのグループでは、「JR仙石線を利用する方の安全を守るために」というテーマで、鉄道乗車時の災害の対処法を調べた。災害時における電車の課題として、避難方法を把握し、周りの指標となれる率先避難者が少ないこと、避難所のマップが分かりづらいことを課題にあげた。対策として、率先避難者になるための知識を身につけられる動画、一目でわかる避難所の一覧の作成などを行っていきたいと考えているそうだ。

避難マップの課題をあげていた発表者は他にもいた。全国で初めて災害系学科を設立した兵庫県立舞子高校環境防災科の中西 剛徳さんだ。中西さんは立体地図を作成すれば、触って分かるようになると考えている。

実際、昨年の夏には気仙沼市に訪れ、調査の上、立体地図を作成し、発表に使った。高さごとに色分けされており、製作には1週間かかったそうだ。中西さんは、この地図を完成と考えず、神戸、兵庫、そして全国の立体地図を作成し、人と人とをつなげる手助けをしたいと話していた。

多賀城高校の大場 琉唯さんは、昨年から水の流れを継続して研究し、岩石や水の流れ、流れの速さの数値化などを行なった。また、今年はダムの調査などを行なったそうだが、まだ調査が足りない点、伝えられなかった点があるそうで、次の発表に向けてまとめていきたいと話していた。

21日の発表終了後、防災指導員の認定を受けている多賀城高校の生徒のみなさんが語り部となり、説明を聞きながらの「まち歩き」が行なわれた。これは、多賀城高校が設置した「津波波高標識」を目印に沿岸部から多賀城駅までの約1・5キロを歩いて回るもので、国土交通省と県や仙台市で組織する「震災伝承ネットワーク協議会」にも「3・11伝承ロード震災伝承施設」として登録されているそうだ。

「多賀城柵」として11世紀ごろまで、東北の政治・軍事の拠点であったとされる多賀城市には、歴史的なモニュメントも残っていて、コースの途中には、百人一首に収められている清少納言の父、清原元輔（908―990）の歌に登場する「末の松山」がある。

契りきな　かたみに袖を　しぼりつつ　末の松山　波越さじとは

これは、869年の貞観地震による津波のときの様子をうたったものだそうで、「涙を流しながら約束しましたよね。末の松山が波を決してかぶることがないように2人の愛も変わらないと。それなのに…」という意味だそう。恋愛の歌ではあるが、同時に貞観地震による津波が末の松山を越えることはなかった、ということも伝えている。

過去の記録としての震災遺構ではなく、未来に向けて進行する多賀城高校の取り組みに今後も注目したい。

▶災害科学科2年生の「JR仙石線を利用する方の安全を守るために」の発表

津波被災地「まち歩き」マップ

▶「末の松山」のあたりは小高い丘になっている

▲多賀城高校が設置した「津波波高標識」。沿岸部では電信柱の上の方に見えるが、駅に近づくにつれて位置が低くなっていくのが分かる

かんなぎ

映画「すずめの戸締まり」には東日本大震災に関係する描写や内容があると友人から聞き観に行った。あとで気がついたことだが、今年で震災から12年となり、そのころ7歳だった私にも、当時の心境や光景があまり思い出せなくなってきていた。

ところが、映画を観て、記憶がブワッとあふれ出した。これ程までに震災は、記憶という枠で収まらず、深く心や体に刻まれているのだと自覚できた。

今、私は学芸員資格を取るための勉強をしている。それはなぜなのか改めて考えてみると、故郷の大好きだった情景を忘れたくないと思ったからだ。

お祭りで行われていた神楽の舞、荒々しい太鼓のメロディーと美しい笛の音色、それに釘付けになる町の人々。そんなごく普通とも捉えられる日常の一コマが、たった1回の地震と津波で一瞬にして壊され、もう二度と戻らないものとなってしまった。「二度と戻らない」と自分の中で自覚するのさえ何年とかかった。

もう以前のように戻ることはできないとしても、昔から行われてきた伝統芸能をここで途絶えさせることなく、昔から脈々と行われてきたのだと後世に伝えていくこと。これこそが私にできることであり、そのために学芸員の資格を取るのだとしっかり確認できた。

時と共に、震災を思い起こす機会が減ってきていると感じる。こうして折に触れ思い出し、自分の気持ちを確認し、糧にして、これからに生かして行こうと思う。

阿部 洋都
盛岡大学1年生

発行
公益社団法人 こどもみらい研究所
〒986-0874 宮城県石巻市双葉町8-17
info@kodomokisha.net

コラボレーション・パートナー
愛する地域を未来の笑顔につなげます 石巻日日新聞
〒986-0874 宮城県石巻市双葉町8-17
☎0225-95-5231
FAX 0225-94-5960

コラボレーション・パートナー
特定非営利活動法人 NPO日本希望工程基金
風の子応援プロジェクト

助成
3.11メモリアルネットワーク基金 JT NPO応援プロジェクト助成

「これまで」にありがとう
この新聞を、いつも楽しく読んでいました
「これから」もよろしく
今後の活動を応援しています
ここから、未来へ――

株式会社 調和（宮城県）
株式会社 すこやか（宮城県）
株式会社 エコ（山口県）
協和薬品 株式会社（富山県）
株式会社 日本薬業（東京都）
ライフメイト・グループ 株式会社（東京都）
〈 エコ21グループ 〉
株式会社 東京エコハウス（東京都）
株式会社 東京エコハウス 神奈川支店（神奈川県）
株式会社 エコハウス（静岡県）
株式会社 エコジャパン21（静岡県）
株式会社 グリーンアップル（北海道）
株式会社 富山常備薬（富山県）
株式会社 やまびこ（福岡県）
株式会社 自然舘（宮崎県）
有限会社 アイック（東京都）
株式会社 アクアプラス（東京都）
日英物産 株式会社（大阪府）
有限会社 斉藤印刷（宮崎県）
福井石油 株式会社（宮崎県）
宮崎中央倉庫 株式会社（宮崎県）
株式会社 宮崎放送（宮崎県）
森川健康堂 株式会社（熊本県）

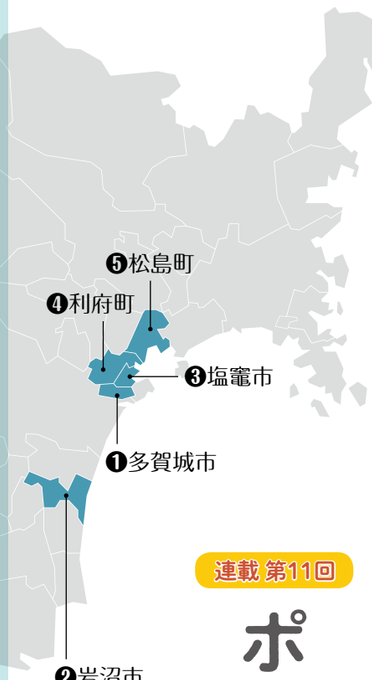
風の子応援プロジェクト NPO日本希望工程基金
〒880-0855 宮崎県宮崎市田代町97-1 TEL:0985-20-8893 E-mail:kazenoko@sizenkan.com
ロゴマーク作成 ▶八重樫 蓮／石巻中学校3年 ※制作当時

連載 第11回

ポケふたと震災遺構

復興を見届ける ラプラスの旅・総集編

取材・文・写真
阿部 匠之介（渡波中学校3年生）
阿部 壮汰（渡波小学校4年生）



❶多賀城市

多賀城市のポケふたには、みやぎ応援ポケモンのラプラスと、ドラゴンポケモンのタッツーが描かれている。

ここは海の中だ。ラプラスはのりものポケモンなので、乗りやすいように背中にゴツゴツしたコブがたくさんある。タッツーはサンゴのかげにすみかを作るので、ラプラスのコブをサンゴとかんちがいして乗ってしまった。それがラプラスとの出会いだったかも知れない。

タッツーは危険を感じると、口から黒いスミを出して逃げるけれど、ラプラスはやさしいから、安心して、話しながらなかよく海の中を旅しているように見える。

多賀城は歴史の古いところだから、ラプラスはタッツーに歴史を教えてあげているのかもしれない。

このポケふたはJR多賀城駅南口の駅前広場にある。

●記者のおすすめポイント

多賀城駅南口には多賀城市の東日本大震災モニュメントもあります。

❷岩沼市

岩沼市のポケふたには、みやぎ応援ポケモンのラプラスと、はりたまポケモンのトゲピーが描かれている。

寝ているトゲピーをうまく立たせれば幸せになるという言い伝えがある。トゲピーは進化すると、トゲチックになる。トゲチックはやさしい人のそばにいないと元気が出ない。トゲチックはさらに進化するとトゲキッスになり、たがいにみとめあいむだにあらそわない人のために、さまざまなめぐみを与えるポケモンになる。

ラプラスはやさしいから、トゲピーを上手に育ててトゲキッスまで進化させられるという。でも、それはきっとうまくいっていて、だからこのポケふたのお天気きは晴れになっているのかもしれない。

このポケふたは「つつみ庵岩沼店」の前にある。

●記者のおすすめポイント

「ポケふたができてから、北海道や兵庫などからたくさんの人が訪れてくれるようになりました」とお店の人は言っていました。土日限定の豆大福もおすすめです。

❸塩竈市

塩竈市のポケふたには、みやぎ応援ポケモンのラプラスと、おうえんポケモンのプラスルと「おでん」が描かれている。

みなとまち塩釜では、ねりもの加工がさかんで、おでんの材料がたくさんあることから、温めるだけで食べられる「塩竈おでん」が名物だ。

プラスルは電気の火花のボンボンを作って仲間を応援する。そして、電柱から電気を吸い取ることができるのだ。プラスルは、塩竈を応援するために、おでんを温めているのかもしれない。

このポケふたはJR本塩釜駅神社参道口の「しおがま・まちの駅」の前にある。

●記者のおすすめポイント

しおがま・まちの駅には塩釜の特産品が販売されていて、海産物の加工品だけでなく、はちやの餃子、イカ軟骨がおすすめです。塩釜の藻塩は塩むすびに最高です!

❹利府町

利府町のポケふたには、みやぎ応援ポケモンのラプラスと、おうえんポケモンのマイナン、利府町の名産品「なし」が描かれている。

マイナンの顔には「マイナス」のマークがあって、仲間が負けそうになると体から出す火花が増える。ラプラスが「プラス」とすると、マイナンの「マイナス」でプラスマイナスで「0（ゼロ）」になるから、「なし（ゼロ）」なのかもしれない。

このポケふたは利府町役場正面の掲示板の左側にある。

●記者のおすすめポイント

このポケふたのとなりにはもうひとつのふたがあります。それには東北新幹線と利府駅の看板が描かれています。利府町には新幹線の駅はないけれど、車両基地があります。東北新幹線は1982年に開通し、その頃はふたに書かれているような白と緑色のデザインだったそうです。

❺松島町

松島町のポケふたには、みやぎ応援ポケモンのラプラスの影が2匹、松島の景色の向こうに見える。

松島には赤い橋が3つある。「福浦橋」は出会いを引き寄せ、「透かし橋」は良縁を結び、「渡月橋」は悪縁を切ると伝えられている。

この二つの影はどの橋を渡ろうとしているのか。でも、もしかすると、これはラプラスの影ではなく、松島の島なのかもしれない。

松島は宮島（広島）、天橋立（京都）と共に日本三景として有名だ。東日本大震災のあとには新型コロナの流行で観光客が減っていたが、にぎわいを取り戻しつつある。

このポケふたは松島海岸グリーン広場のまんなかにある。

●記者のおすすめポイント

菓匠三全のずんだシェイクは、つぶつぶずんだとミルクがあっていて、お天気のいい日におすすめです。

SNS通じて未知の職業を発信

若い世代の〝お仕事図鑑〟を目指して

ホワットのこんなお仕事あったんだチャンネル

プロデューサー　高橋 千さん

取材・文
千葉 美琴（蛇田中学校1年生）

「将来の夢はなんですか?」と聞かれてすぐに答えられるだろうか?今ある職業が10年後にもあるかどうかわからない時代になってきたと言われる。「ホワットのこんなお仕事あったんだチャンネル」でさまざまな職業を紹介している株式会社アームズの高橋 千さんにお話を聞いた。

「ホワットのこんなお仕事あったんだチャンネル」はYoutubeで公開中

高橋　千さんは石巻出身のCMプロデューサー。プロデューサーとは、イベントやコマーシャル、映画、音楽などのプロジェクトの企画から実行までを仕切る人。予算、スケジュールや品質の管理が仕事だ。

「最初からプロデューサーになりたかったわけではないです」と高橋さん。中学生ぐらいから、高校を卒業したら東京に出たいと思っていた。ある時、アメリカの音楽専門チャンネル「MTV」でプロモーションビデオを見て、映像がかっこよく衝撃を受け作ってみたいと思った。横文字の仕事へのあこがれもあった。入社して、無我夢中で働いた。3年でやめようと思っていた時期もあったが、結果30年以上、さまざまなCM制作を手がけてきた。

CMとはテレビコマーシャルのこと。商品を売ったり宣伝したい企業がお金を出して、テレビで宣伝するための動画を作るのが高橋さんの仕事だ。たくさんの人たちが関わって作るので、板挟みになることもあるが、スタッフが楽しんで仕事ができることを一番大切に考えている。

これからは人の役に立つこと、エコロジーを進めること、SDGsがテーマになる企業のCMを作りたいそうだ。

CMだけでなく、SNS動画で人の役に立つ情報を発信できないかと考え、今、「ホワットのこんなお仕事あったんだチャンネル」を制作・発表している。知りたがり屋の宇宙生物「ホワット」が、世の中にあまり知られていない職業を紹介するシリーズだ。

「私が中学生ぐらいの時には、インターネットもなく、地方にいると、世の中にどんな仕事があるのかわかりませんでした。将来の仕事を選ぼうとしている中学生から22~23歳の学生さんたちにぜひ見てほしいです」と高橋さん。若い世代が将来の仕事を探すときの「お仕事図鑑」になることを目指している。

動画の最後に紹介される制作スタッフのクレジットを見ても、どんな仕事なのかわからないものがたくさんあったので聞いてみた。「出演者の他に、例えば、『クリエイティブ』は作品の中身に責任を持つ人、『構成』は作品のシナリオと構成を考える人、『演出』はディレクターでクリエイティブの方針を受けて具体的に決める人、みなさんのあこがれです。『撮影』はカメラマンのこと。『スタイリスト』は服を決める人、コーディネートする人、『MA』は音を整理したり管理したりする仕事です」。動画制作一つとってもこんなにたくさんの仕事があるなら、自分の得意な分野を見つけていくのはそう難しくもなさそうだ。

高橋さんが子どものころに住んでいた石巻市門脇町のあたりは東日本大震災の津波で大きな被害を受けた。「思い出の場所も家もすべてなくなりました。そんな経験はめったにないことだと思います」と高橋さんはしみじみ語る。ストレスの多い激務をこなす中で、なんでも聞いて相談に乗ってくれたお母さんを8年前に亡くした。「天国に電話がつながらないかなぁと思うことがあります。仕事に必要なのは悩みを共有できる人の存在です」と話していた。

地域の今を伝える　石巻日日新聞社

■大正元年創刊の日刊夕刊紙「石巻日日新聞」
まちの小さな情報も逃さず掲載
気になるニュースはもとより、人気コンテンツでは明日の運勢、読者投稿、気になるお店、映画上映スケジュールなど盛りだくさん。

■地域みっちゃく生活情報誌「んだっちゃ!」
地元商店や消費者が主役!
巻頭記事や、衣・食・住、求人など、生活に役立つ広告情報発信やクーポンもついており、読んで、使えて、楽しめる生活情報誌です。

購読・広告お問い合わせ
0225-95-5231 受付：月～土曜日 午前9時～午後5時
〒986-0874 宮城県石巻市双葉町8-17　sales@hibishinbun.com
インターネット申込みフォーム

トヤケ森山（石巻市南境）より
石巻市あけぼの、東松島市方面を撮影